

私にも言わせて！ 第16回

イギリス留学を経て公衆衛生医師に。 日々勉強をモットーに明るく勤務中！



福岡県糸島保健福祉事務所 総務企画課企画指導係副保健監兼係長 橋本 弥生

平成7年自治医科大学卒業。熊本県内各地の医療機関で内科医として勤務。義務年限終了後、16年から1年間イギリスカーディフ大学大学院へ留学。17年から福岡県内の保健所勤務。

自治医科大学を卒業後、熊本県内の僻地医療機関などで内科医として勤務しました。僻地では「村でた一人の女性医師」であり、文字どおり「何でも」診てきました。当時の仕事にやりがいがありました。精神的にはかなりの産つぶちの状態だったと思います。

公衆衛生医師になるまでの経緯

義務年限（9年間）が終わるのを機に、一度、外の世界へ出て思いっきり羽を伸ばしてみたいと思い、産業医科大学医学部公衆衛生学教室の松田晋哉教授からのご紹介でイギリスのカーディフ大学へ1年間留学することになりました。その後、縁があつて福岡県職員として採用され、現在は福岡県内の保健所に勤務しています。

留学中はイギリスだけでなく世界各地からのクラスメートに囲まれ、カリキュラムも「疫学」「社会学」「危機管理」「医療経済学」など幅広く学びました。



平成24年度福岡県総合防災訓練（スクリーニング検査） 平成24年6月3日福岡県立修猷館高等学校にて

関や介護施設でもノロウイルスの集団発生が起るのか、すでに起っているかもしれないでしょ。だから、至急、管内の医療機関や介護施設の状態を確認して、そうねえ、3日〜4日後に保健所でバーンと研修会開いて、そこで頑張つて格好よく話してよ。じゃ、よろしく。何？ エツ？ 楽しくない？ おかしいなあ、僕はこんなに楽しくてしかたがないんだけど。エツ？ 楽しいのは僕だけ？ 給料もらつて勉強できるなんて、こんなありがたい仕事はないでしょ。よかつたね（笑）。まあそういうことでよろしく！

いつもこんな調子で、M所長が楽しければ楽しいほど、私は仕事が増えて表情が暗くなるという「反

（ここでは「弱肉強食」「大きい声で言い負かした者勝ち」があたりまえらしく、学生であろうと教師であろうと異なる意見がある場合は堂々と反論し、派手な言い合いになって收拾がつかずに時間切れという授業もよくありました。また留学中で印象的だったのは、私がインフルエンザにかかり40度の熱が出たとき、家庭医へ電話をかけ診察の予約を入れようとしたところ、受付の女性から「1週間先まで予約はいっぱいよ。インフルエンザくらいなら薬局で解熱鎮痛剤買つて飲んどきなさい！」とキツパリ断られたことでした。

後日、大学の教授へそのことを伝えると「患者の立場からすると比例の法則」が成り立っています。M所長のお言葉のとおり、保健所長会の事務局の仕事、原発事故対応訓練やマニュアル作成、WHO本部（スイス）視察研修、福島県での国際放射線医学会への参加、そして今年度はさらに地域保健総合推進事業「公衆衛生に係る人材の確保・育成に関する調査および実践活動」研究班以下、「研究班」の末席に加えていただき、（たいへんありがたいこと）お給料をいただきますながら、日々、さまざま勉強をさせていただいております。

「勉強会」は「資質向上」と「つながり」を得る大切な場

前記研究班の事業の一つとして、平成25年8月31日（土）から9月1日（日）にかけて東京都内で開催された「公衆衛生 若手医師・医学生サマーセミナー」（以下、「サマーセミナー」）では、公衆衛生若手医師・医学生を中心に約40名に参加していただき、浅漬食中毒、福島原発事故対応、風しん流行時の対応など、公衆衛生の現場で役立つ講義等を受講していただきました。

イギリスは日本より不便だよ。でもイギリスの医療制度のお陰で医療経済的には無駄な医療費を使わなくて済んでいるんだよとコメントされました。そのときは釈然としませんでした。日本では医療費がドンドン増え続け財政破綻も危惧される中、そのときの教授のコメントも一理あると思えました。

業務についての印象深いエピソード

臨床から行政へ入って最も戸惑ったのは、「医師個人としての立場」から「福岡県行政」という組織の一員としての立場の違いでした。臨床の現場では常に一人の医師として患者に接し迅速な判断と治療が必要ですが、公衆衛生医師としての役割は行政組織の一つの歯車として動き、医師個人としての意見や判断を対外的に発することは

タブーです。そういう意味では、とても窮屈で無味乾燥な感じがすることも否めません。実際、私自身も福岡県に就職したときは「保健所勤務は1年続ければよいほうだろう」と思っていました。早いもので保健所での勤務を始めて7年が過ぎました。

ここで、私の職場でよく見る光景をご紹介します。現在、直属の上司であるM所長は、一年中、「仕事が楽しくてしかたがない」と豪語しています。出勤直後にM所長が所長室の前で「橋本係長、ちよつとー」といつともよりさらに1オクターブ高い声で声が掛かるときは「要注意」です。特に上機嫌で笑いが止まらないときは、必ず何か珍しい事件や新しい仕事のネタを発見したときで、「係長、今朝のニュース見た？ ○○市の病院でノロウイルスが集団発生してたよね？ ウチの管内の医療機

例を取り上げ、若手もベテランも一緒になって議論をしています。このような学習の場を定期的にもつことで、若手医師も物事の考え方を学ぶことができ、先輩・後輩の縦のつながりや若手どうしの横のつながりも自然とできています。

自分が保健所長だったらどうするか？」について、参加者全員がグループディスカッションをしていただきました。保健所勤務1年未満の若手医師（保健所にまだ勤務していないが興味のある）臨床医、医学生の皆さんも積極的に発言し活発な議論が行われました。ディスカッション後の発表では、ペテラン医師も顔負けの立派な発表が行われ、お世辞抜きに「今日から保健所で働ける」レベルの高い内容となりました。

また福岡県では、行政医師等の資質向上を目的として、毎月1回、事例検討会を含む勉強会を行っています。勉強会は「公務」として行われ、日々の業務に役立てられています。

事例検討会では、食品衛生、感染症、精神保健、母子保健、医薬品等、できるだけ幅広い分野の事

「学生時代からバリバリ公衆衛生大好き」のあなたも、「学生時代には別に公衆衛生に興味がなかったけど、最近はずっと興味が出てきた（あるいは、現在の仕事に行き詰まりを感じて別の道を探している）あなたも、ピンときたら、どうぞ一度ご連絡ください。お待ちしております。

皆さんへ一言

皆さんへ一言